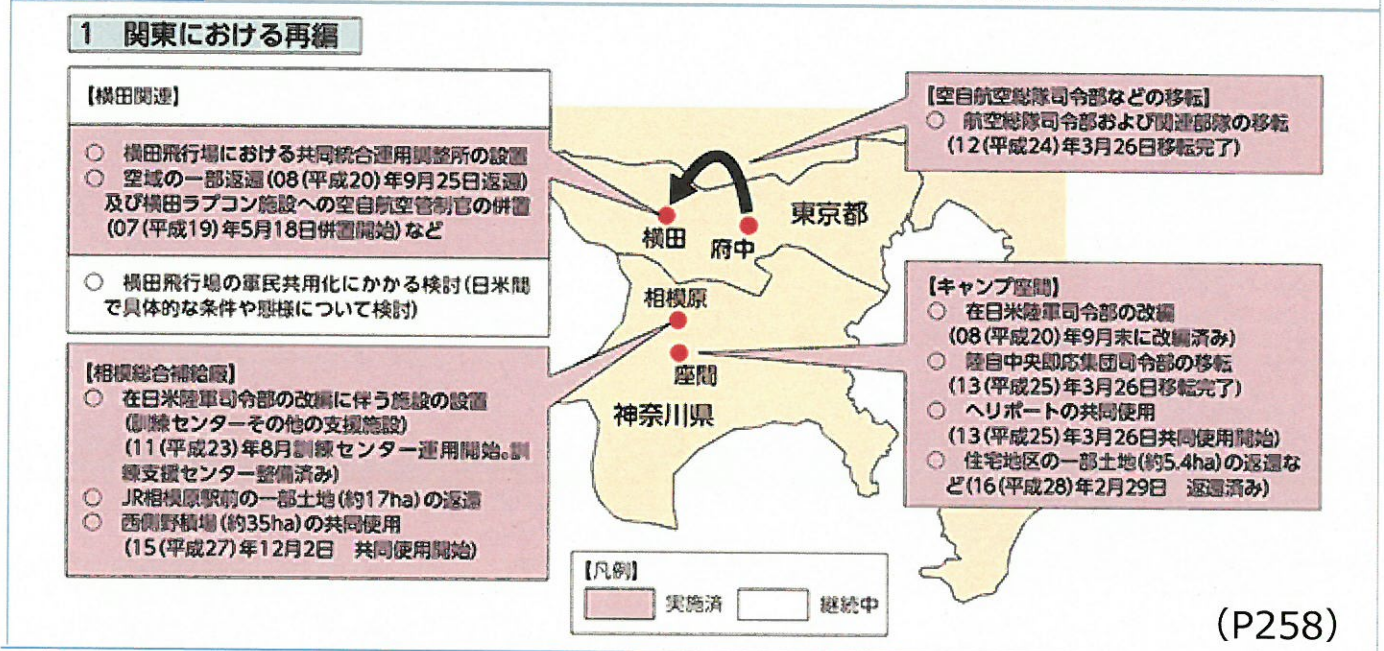


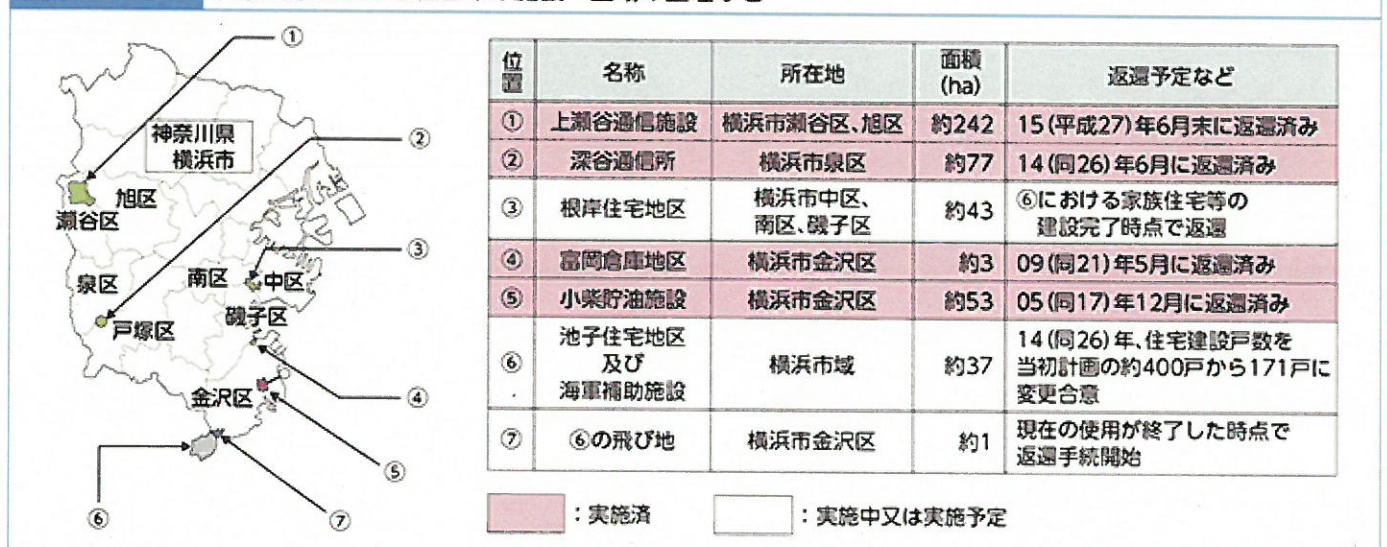
図表Ⅱ-4-4-3 「再編の実施のための日米ロードマップ」に示された在日米軍などの兵力態勢の再編の進捗状況



1 神奈川県における在日米軍施設・区域の整理など (P270)

➤ 地方公共団体などからの強い返還要望を踏まえ、日米間で協議した結果、横浜市内の6施設・区域の返還と「池子住宅地区及び海軍補助施設」(横浜市域)における米軍家族住宅などの建設を行うこととされた。これまで、返還予定面積約419haのうち、上瀬谷通信施設など4施設・区域、約375haが返還されたところである。

図表Ⅱ-4-4-10 神奈川県における在日米軍施設・区域の整理など



2 ロードマップに示された米軍再編の現状など (P270)

(1) 在日米陸軍司令部能力の改善

- キャンプ座間（神奈川県相模原市、座間市）に所在する在日米陸軍司令部は、高い機動性と即応性を有し、かつ、統合任務が可能な司令部となるよう、07（平成19）年12月に在日米陸軍司令部・第1軍団（前方）として発足し、08（同20）年9月末に改編された。
- また、各種事態への迅速な対応のため在日米陸軍司令部との連携強化を図るため、平成24年度末に、陸自中央即応集団司令部を朝霞駐屯地（埼玉県朝霞市、和光市、新座市、東京都練馬区）から在日米陸軍司令部が所在するキャンプ座間へ移転した。さらに、キャンプ座間及び相模総合補給廠（神奈川県相模原市）の、より効果的かつ効率的な使用のため、それぞれ一部返還などの措置が講じられ、16（同28）年2月にはキャンプ座間の一部土地（約5.4ha）の返還が実現し、同年4月、返還跡地に、座間市が誘致した「座間総合病院」が開設された。また、相模総合補給廠の一部土地（約35ha）については、15（同27）年12月に相模原市との共同使用が実現した。その他、在日米陸軍司令部能力の改善に伴う再編事業は、図表II-4-4-11のとおり進められてきた。

図表II-4-4-11 在日米陸軍司令部能力の改善の取組

時期	改善内容
07（平成19）年12月	キャンプ座間に、在日米陸軍司令部・第1軍団（前方）として発足
08（同20）年6月	相模総合補給廠の一部土地（約17ha）の返還合意
08（同20）年9月	在日米陸軍司令部・第1軍団（前方）の改編
11（同23）年8月	任務指揮訓練センター運用開始
11（同23）年10月	キャンプ座間の一部土地（約5.4ha）の返還合意
12（同24）年6月	相模総合補給廠の一部土地（約35ha）の相模原市との共同使用に合意
13（同25）年3月	朝霞駐屯地からキャンプ座間に、陸自中央即応集団が移転
14（同26）年9月	相模総合補給廠の一部土地（約17ha）の返還
15（同27）年12月	相模総合補給廠の一部土地（約35ha）の共同使用開始
16（同28）年2月	キャンプ座間の一部土地（約5.4ha）の返還

(P271)

2 ロードマップに示された米軍再編の現状など

(2) 厚木飛行場及び岩国飛行場に関する施策 (P272)

(ア) 空母艦載機の移駐

- 空母艦載機の拠点として、厚木飛行場（神奈川県綾瀬市、大和市、海老名市）が現在使用されている。厚木飛行場は市街地の中心に位置し、特に空母艦載ジェット機の離発着にともなう騒音が、長年にわたり問題となっており、空母の運用を安定的に維持していくためには、こうした問題を早期に解決することが必要である。
- そのため、滑走路移設事業12により、周辺地域への影響がより少ない形で運用することが可能となる岩国飛行場（山口県岩国市）へ、厚木飛行場の第5空母航空団を移駐することとした。
- また、移駐に伴って運用が増大する岩国飛行場への影響を緩和するため、図表II-4-4-12の各種施策が実施されることとなっており、その結果、岩国飛行場周辺の騒音は、住宅防音の対象となる第一種区域の面積が約1,600haから約500haに減少するなど、現状より軽減されると予測されている。

図表Ⅱ-4-4-12 厚木飛行場及び岩国飛行場に関する施策

施策	進捗状況など
厚木第5空母航空団の岩国への移駐	17(平成29)年頃までに完了予定
岩国海自EP-3などの厚木への移駐	地元要望を受け、防衛体制上の観点も踏まえて日米間で検討した結果、13(同25)年岩国に残留させることを確認
普天間KC-130の岩国への移駐	14(同26)年8月移駐完了
KC-130の鹿屋やグアムへのローテーション展開	○海自鹿屋基地(鹿児島県鹿屋市)へのローテーション展開については、15(同27)年10月、鹿屋市は理解を表明 ○現在、具体的なローテーション展開の開始時期について日米間で協議中 ○グアムへのローテーション展開については、訓練の実施状況について、米軍へ確認中
岩国CH-53Dヘリのグアム移駐	中東に派遣されていたCH-53Dヘリは、岩国に戻らず直接米国本土へ移駐した後、グアムへ移駐することを日米間で確認

■ : 実施済 □ : 実施中又は実施予定

(P273)

2 ロードマップに示された米軍再編の現状など

(イ) 空母艦載機着陸訓練 (P272)

- ロードマップにおいては恒常的な空母艦載機着陸訓練施設について検討を行うための二国間の枠組みを設け、恒常的な施設をできるだけ早い時期に選定することが目標とされた。11(平成23)年6月の「2+2」会合では、新たな自衛隊施設のため、馬毛島(まげしま)が検討対象となる旨地元の説明することとされた。同施設は、大規模災害を含む各種事態に対処する際の活動を支援するとともに、通常の訓練などのために使用され、併せて米軍の空母艦載機離発着訓練の恒久的な施設として使用されることになることとされている。なお、05(同17)年の「共同文書」においては、空母艦載機着陸訓練のための恒常的な訓練施設が特定されるまでの間、現在の暫定的な措置に従い、米国は引き続き硫黄島で空母艦載機着陸訓練を行う旨確認されている。

(3) 横須賀海軍施設への米空母の展開 (P272)

- 米太平洋艦隊のプレゼンスは、アジア太平洋地域における海洋の安全や地域の平和と安定に重要な役割を果たしており、米空母はその能力の中核となるものである。
- 米海軍は、横須賀海軍施設(神奈川県横須賀市)に前方展開している原子力空母11ロナルド・レーガンをはじめ、日本の港に停泊中のすべての原子力艦について、通常、原子炉を停止させることや、日本において原子炉の修理や燃料交換を行わないことなど、その安全面での方針を守り続けることを確約しており、政府としても、引き続きその安全性確保のため、万全を期する考えである。
- 15(同27)年10月及び16(同28)年3月に米軍BMD能力搭載イージス艦が横須賀海軍施設(神奈川県横須賀市)に配備された。また、17(同29)年7月頃にも追加配備される予定である。(P273)